

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立谷塚中学校
(令和2年2月3日作成)

1 学校教育目標	
○学び合う生徒（知） ○思いやる生徒（徳） ○高め合う生徒（体） 校訓「文武両道」	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
1 信頼される学校 2 確かな学力の育成 3 豊かな心の育成 4 健やかな体の育成 5 教育課程の改善	成果 ○谷塚中独自の言語活動を充実した授業システムを確立し、話し合い活動マニュアルを策定し、各教科で実践することができた。 ○授業規律の徹底を図り、落ち着いた環境を作ることにより、授業へ集中して取り組める生徒が増えた。 課題 ●さらなる学校の組織力の向上に努め、基本的な生活習慣や学習規律の確立を進めていく。 ●「特色ある学校づくり」を狙いとし、幼保小中を一貫した教育の実践をより効果的なものにするため、教員の校内における研修機会の増やし改善し、それを学校からの情報提供や学校公開の機会を活用し、より保護者・地域に働きかけていく。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営目標、方針 ・ 校務分掌組織 ・ 適所への適材配置 ・ 職員会議等の運営 ・ 予算の執行・決算、監査等 	B	○学校教育計画のもと、各教科及び領域の授業時数の確保を図ることができた。 ○職員会議議題の整理・精選を行い、企画委員会にて校長等の判断処理ができるようまとめ、効果的に運営できた。 ●行事の精選を含め、授業時数の確保を一層推進していく。 ●校務分掌の組織運営について、教員負担を軽減するため、精選を行う。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織、計画、実施 ・ 校内研修の推進 ・ 授業改善への取組 ・ 校外研修会への参加 ・ 人材育成 	B	○本校独自の「話し合い活動マニュアル」を作成し、全教科を横断し、指導法の工夫改善を行った。 ○「特別の教科道徳」について、外部からの指導を受け、本校における指導方法の改善を行った。 ●幼保小中を一貫した教育を通して行った指導法の工夫改善が具体的に諸調査の結果にあらわれるように、より取組を強化していく。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健計画、安全計画 ・ 環境衛生の管理 ・ 健康観察、安全点検 ・ 緊急事態発生時の対応 ・ 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○学校保健計画、学校安全計画をもとに保健指導や安全指導の充実を推進した。 ○日々の健康観察、月ごとの安全点検の徹底を図り、生徒の健康管理・安全管理に積極的に取り組んだ。 ●緊急事態発生時の対応の見直しを実施し、多様な事例をもとに、訓練を実施していく。

	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○個人情報において校内規定のもと、管理徹底が図れた。また、校務用パソコンを全教職員が活用し、個人情報の取り扱いの意識向上が図れた。</p> <p>○月ごとの安全点検を行い、危険、修繕箇所を迅速に把握し、市教委とも連携して速やかに修繕・改善が図れた。</p> <p>●施設の老朽化を考慮し、市教委と連携しながら、計画的な修繕を進めていく。</p>
I 学校運営に関するもの	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、 学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○学校HPの定期的な更新や学校便りなど各種便りやメール配信を通じて情報を発信した。また、学校公開や学校めぐりも計画的に実施できた。</p> <p>○学校運営協議会・ネットワーク会議等を通して、現状報告、学校評価をもとにご意見をいただき、学校経営の改善に取り組んだ。</p> <p>●行事の積極的な参加呼びかけや交流活動、地域人材活用も行っていく。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	A	<p>○本発表では、3年間の研究・実践を発表し、「谷塚中学校区」としての学びの規律を確立することができた。</p> <p>○中学校区として計画的に小中一貫の取組（教職員研修、行事交流、授業交流など）を実施できた。</p> <p>●幼保との連携、小中一貫教育の取組を定着させ、さらに効果的に進めていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	① 教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じた教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<p>○学校教育計画のもと、各教科及び領域の授業時数の確保を図ることができた。</p> <p>○学習指導要領の内容をもとに年間指導計画や学習シラバスがほぼ予定通りに実施できた。</p> <p>●行事の精選を含め、授業時数の確保を一層推進していく。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<p>○各教科で「わかる授業」を実践して指導方法の改善に取り組んだ。また、ICT機器の授業での活用について各教科で実践した。</p> <p>○各教科・領域で言語活動を充実させ、「谷塚中学校の話し合い活動マニュアル」を作成・実践を行った。</p> <p>●話し合い活動をより充実・定着するための手立てを構築する。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<p>○道徳の授業時数の確保と「評価」を先行して行った。また、各教科や領域と関連を図り、道徳的実践力を向上させることができた。</p> <p>○外部から講師を招き、授業の抜本的改善を目指し研修を行い、見直しを図った。</p> <p>○「話し合い活動」を充実させ、他者との関わりの充実を図り、指導法の改善を行った。</p> <p>●道徳の教科化に伴い、指導計画や評価方法を見直していく。また指導法の改善を図っていく。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	B	<p>○特別活動の年間計画のもと、集団活動を通して積極的に集団に参加する態度を育成することができた。</p> <p>●更に常時の生徒活動を積極的に取り入れ、生徒の自治能力の向上を目指していく。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○各学年の実態に合わせた指導計画に基づいて自ら考え、興味・関心に応じたテーマを選択し、活動を実践することができた。</p> <p>●「主体的・対話的で深い学び」の観点から話し合い活動や発表の仕方など、学校としての取り組み方を考えていく。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導部では、報告しながら方針・改善を考える場となり、組織的に問題行動への対処を行った。</p> <p>○いじめ防止対策委員会を定期的に行い、定期的に面談を行うなど、いじめの未然防止のために生徒理解に努めた。</p> <p>●機動的な生徒指導体制の充実を図ると共に「信頼関係」に基づいた生徒指導を実践し、生徒一人ひとりの基本的生活習慣をより確立させていく。</p>

	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	A	<p>○進路指導部を中心に特色のある進路指導が実践された。また、また高校の先生を招くなど、多面的に指導の工夫を行った。</p> <p>●本校独自の進路キャリア教育の指導計画を見直していく必要がある。</p>
II 教育活動に関するもの	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○生徒個々の実態を把握し、適切な個別計画に基づいた指導が行われた。また、授業や日々の生活を通して、明るい生徒が育っている。</p> <p>●通常級にもまだまだ「個に応じた指導計画」を必要とする生徒もいるので、適切な支援計画、指導体制を充実し、更に市教育支援室など関係機関との連携を推進していく。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○学校図書館教育の指導計画のもと、司書教諭及び学校司書を中心に朝の読書活動、本の貸し出しなど図書館利用を積極的に行うことができた。</p> <p>○学校図書が充実しており、掲示等の工夫がなされ、図書館利用の生徒が増えた。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○校内研修会や研究授業等でICT機器を活用した研修や授業を積極的に行うことができた。</p> <p>○教室内でもwi-fiが可能となり、より充実した指導を行うことができた。</p> <p>●学力向上に向けてICT機器を効果的に授業に活用できるようにICT指導員の講習を基に指導法を研究していく。</p>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○同和問題についての研修を行うことにより、生徒の指導に生かすことができた。</p> <p>●普段の指導や道徳等の時間で、DVDの視聴などで人権について考える時間を多く設定したい。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	○学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立 ・家庭学習の定着 ・指導法の工夫改善 	B	<p>○授業規律（中学校区授業の約束）の定着、家庭学習の保護者へ呼びかけ、家庭学習ノートの活用などに努めた。また、マニュアルを用いた話し合い活動の充実に取りくんだ。また、学習会（定期テスト前）や本校独自のみつばち自習会を実施し、生徒の基礎的学力を高めた。</p> <p>●話し合い活動では、一部の教科で取り組めない教科があった。それぞれの教科の特性を踏まえた活動が必要である。</p>
	○学校間連携教育	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内小学校、草加南とも連携、協力 ・近隣の地域の幼保との交流 	A	<p>○近隣小学校（谷塚小、氷川小）とのあいさつ運動や音楽交流、草加南高校とのテスト前学習会交流など計画的に実施できた。また、校区内幼保小学校の教職員との合同研修会や授業参観も計画的に実施でき、連携を推進できた。</p> <p>●学校間連携の内容や時期などについて研究を積み重ね、幼保小中を一貫した教育での研究を生かした実践を深めていく。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

研修主題「共に 学び合い 認め合い 高め合う 子どもの育成～幼保小中を一貫した教育の取組を柱として～」を軸として、学力向上・規律ある生活・健康体力の向上を目指し、指導法の研究に取り組んだ。

学習においては、指導法の工夫改善に向けて実践や検討を重ね、話し合い活動の充実を狙いとし、本校独自の「話し合い活動マニュアル」を策定した。また、授業規律に重点を置いたことで、基本的な生活習慣の定着にもつながったと考える。また、昨年度の学校評価アンケートでは、家庭学習の評価が低いことから家庭学習ノートの充実を図るため、家庭学習選手権などで競争意識を高揚するなどの取組を行った。結果、家庭学習ノートでの家庭学習の定着も図れてきた。

学校行事、生徒会活動などは、生徒内で実行委員を形成し、生徒を中心とした活動をより強化し、学校行事もより意欲的に取り組む生徒が出てきた。特に体育祭や合唱コンクールなどは保護者、地域の方々も多く来校していただき、高い評価をいただいた。

しかし学校評価保護者アンケート結果から、昨年度よりは特色ある学校作りについて不十分であるという回答もあり、学校の取組が保護者に届いていない面がある。また、諸調査から、学力の基礎基本が定着してない生徒もいる。

そのため、教員個々の授業力を向上させ、生徒一人ひとりの学習意欲を向上させる指導法の研究が必要であり、学校としても補習や学習会などを更に積極的に行うことが必要となる。また、学校からの情報提供や学校公開の機会を活用し、より保護者や地域に働きかけることが不可欠である。

6 次年度の改善策

・各教科で生徒一人ひとりの学習意欲を向上させる授業改善を進めていく。特に、言語活動を活発化し、授業の指導法の工夫を図ることにより、生徒に課題解決能力、応用力等も高めていく。そのためには一時間の授業を大切に、「授業のめあて」を提示し、生徒にとって「わかる授業」を展開していく。そして生徒の意欲を喚起させる評価方法の工夫を行い、「まとめの時間」をしっかりと毎時とり、自己評価を充実する。また、教員の指導の資質を向上するため、相互に授業参観する場を設け、個々の教材を共有するなど、働き方を改善すると共に、より効率的・効果的に指導の取組方を改善していく。

・個々の教員の負担を軽減しつつ、効率的な教育活動の充実を図る。特に、校務分掌を見直し、教材の共有化等、個々の負担を軽減すると共に、教員同士の横のつながりを充実させ、チームとして各分掌・各教科を担えるよう働きかける。また、学校行事の精選を図り、効果的な教育活動を行えるよう検討を行う。

・校舎等の老朽化の中、関連組織と連絡を取りつつ、学校全体で教育環境整備や校内美化活動を推進して、整備及び改善を図っていく。

